

令和6年度 第1回学校運営協議会記録

令和6年5月29日（水）
9:15～10:30

【出席者】

・委員（14名中11名出席）

吉利会長 植田副会長 片山委員 小延委員 高田委員 竹本委員 難場委員 星川委員
本田委員 渡邊委員 中村校長

・教職員（計11名出席）

1 開会

- （1）校長あいさつ
- （2）令和6年度学校運営協議会委員任命
- （3）参加者自己紹介

2 本会の規則等 確認

3 会長・副会長の選出

4 議事

（1）今年度の学校経営計画

①校長より説明

②プロジェクトチームから

[自立活動推進チーム]

- ・自立活動とは、児童生徒の障害による学習上生活上の困難に対して、改善克服するために取り組むもので、教科学習の下支えとなるもの。
- ・今年度2名の教員が新しく加わり、昨年度から引き続きの教員2名を合わせて4名のチームとなった。
- ・教室を巡回して担任と相談しながら指導を行う。感覚遊具やサーキットの設置等の授業準備やプール学習のシミュレーションの実施、自立活動のねらいのために効果的な活動内容を担任と一緒に考えることは昨年度に引き続き行う。
- ・今年度は、自立活動目標検討会を進めていくファシリテーターの育成研修を実施した。また、専任チームが自立活動目標検討会に参加し、目標が決まったら担任と話し合いながら長期的に指導に携わる。加えて、ICT専任チームと協力して指導内容を考えていくようにする。
- ・学部会で生徒の自立活動の目標や取組について共有する時間を設けるように計画する。
- ・インスタグラムを活用して専任チームの取組の様子やその意図を発信する。
- ・センター的機能の強化にむけて、小中学校で困られていることに対して、自立活動推進チームがお役に立てることがあるかもしれないので、気軽に声をかけていただきたい。

[ICT活用チーム]

- ・ICT活用専任チームは、本年度も3名で構成。
- ・昨年度の成果として、自信をもてなかった生徒が視覚的な支援や環境整備を行うことで主体的に行動できるようになったり、不登校気味だった児童が自立活動の時間（ICT活用）を励みに登校できるようになったりするケースがみられた。

- ・昨年度の学校運営協議会で出た意見を受け、ＩＣＴを活用した授業や行事などをリストにした。今年度は担任や教科担当の先生が授業でＩＣＴをさらに活用してもらうために、年度始めに希望を取り授業を組んだ。
- ・今年度は、ＩＣＴ機器の活用やアプリを使っでの学習活動などで、ＩＣＴ活用専任チームが主指導者になり、ＩＣＴ機器の推進やアプリの活用方法を児童生徒や先生方に伝える。
- ・教員の働き方改革につながるように、全校で共有できる掲示板を作成し、全校でシフト調整を行うことで負担軽減になればと考えている。
- ・教職員のスキルアップを図り、ＩＣＴの特性・強みを生かした新たな教育手法に取り組んでいく。
- ・児童生徒の実態・目標を踏まえた１人１台端末（タブレット端末や視線入力など）の活用を行うために、担任・自立活動専任チーム・ＩＣＴ活用専任チームが連携してＩＣＴ機器を活用した支援を行っていく。

[寄宿舎教育]

- ・昨年度は、「魅力発進～みんなの力で育てる寄宿舎～」のテーマのもと、学舎、地域で連携して舎生の成長に寄り添うことができる環境づくりを目指した取組を行った。
- ・今年度は、学校内で連携して地域への発信をしていく。舎生のニーズに合うなど活動ができるボランティアを募集し、舎生の「育ち」につながるようにする。
- ・寄宿舎生にアンケートをとったところ、ダンス、フライングディスク、ファッション、ヘアースタイル、ピアノ、バスケ、卓球、カラオケ等がしたいという声が上がっている。情報やアドバイスがあれば教えていただきたい。
- ・昨年度に引き続き「遊びの達人」（教員の趣味、特技を生徒に披露し一緒に動をする）、学習会（生活、保健、安全）、大学生による余暇支援、調理体験、園芸など実施予定。
- ・新しい取組として、アートプロジェクト「寄宿舎の看板を作ろう！」をする。
- ・今後も寄宿舎の魅力を発信していきたい。

③学校経営計画について各グループで意見交換後に委員から報告された内容

- ・人材育成の継続性とはどのような取組で考えられているか。
- ・自立活動とはどのようなものか。
- ・ICTの取組として、旭川荘ではゴーグルを装着しての取組がある。
- ・小学校では、未来シードというアプリを活用している。様々な交流が進んでいけばよい。
- ・専任チームがいることで、より教育が深まっているのではないか。
- ・ICTに関して教師や生徒のスキルは上がっているが、社会に出た後どう活用していくのか。卒業後の事業所等では、活用のスキルが追いついていないのではないか。
- ・寄宿舎では社会性を身に付けていくことが必要。
- ・旭川荘ではアート活動をしている。

[校長より]

専門性を高め広げられるように、新しい教員を数名専任チームに配置し、子供も大人も育つ学校になるように取り組んでいる。他校への視察も実施する。

(2)「生涯学習」推進計画について

①学校より説明

- ・地域の資源を活用し、児童生徒の興味、関心を高める活動に広がりをもたせて、生涯学習につながる取組を推進していく。
- ・校内の資源を活用「専任チーム、遊びの達人」等
- ・地域の資源を活用「高島公民館、ボランティア、人材バンク」等

- ・児童生徒の興味関心を高める「障害者スポーツ大会」として壮行会の実施、大会当日の応援、取材、報告会や表彰式、関連する大会や教室等の案内、ブログ・SNSで発信する。
- ・文化芸術関係においても実施できればよい。
- ・児童生徒の充実感、豊かさ、やりがい、生きがい、仲間、居場所を作っていくために、「しる」「する」「みる」「支える」ことを大切に取り組んでいきたい。

②生涯学習推進について各グループで意見交換後に委員から報告された内容

- ・地域にも ICT 専門家が居られる。アプリも進化し派遣依頼してみても。
- ・音楽作成（楽曲作成、AI など）
- ・旭川荘利用者にも、障害者スポーツに参加している人がいる。一緒に活動できるのではないかな。
- ・パラスポーツ、ワールド AC 等 色々なスポーツの体験ができる。参加できる競技を増やしている。
- ・パラリンピックにエントリーしてみても。
- ・e スポーツなどもある。卒業後の進路を意識して取り組んでみる。
- ・学校でできていることを卒業後もできるように学校からのアプローチが必要。
- ・テレビアナウンサーにチャレンジしてみても。
- ・音楽、美術鑑賞の場を広げる。（本物に触れる機会）
- ・リモートでいろいろな施設と交流
- ・野菜を作って販売
- ・地域や社会に出ていく機会をもつ
- ・竜ノ口はボッチャが盛ん
- ・地域に絵や詩の展示をしても
- ・保護者の中にも特技をもたれている方がいる。PTA 新聞等でお知らせしても活用できるかも。
- ・書道、絵画、デジカメ写真、アプリデジタルアート等のコンテストへの参加。賞状をもらえたり、子ども同士の励みになったりする。
- ・卒業後の余暇として、ダンスに詳しい委員さんが居られるのでこの後どうぞ。
- ・防災に関しても地域の特性を知って計画をしたらよい。

(3) 承認の採決

学校経営計画について承認された。

5 連絡

(1) SNSでの情報発信について

- ・SNS を 3 種類している。ぜひご覧ください。
- ・11/9(土)文化祭ファッションショーを行う。ご協力をお願い。

(2) 今後の予定について

6 閉会

あいさつ

- ・学校と地域が近くなった。
- ・専任チームの活躍
- ・皆様のご協力をお願い

学校運営協議会の様子

